

アルミ輸入は因需の低迷で全品種減少

生産はアルミ圧延品、二次合金とも減少

橋本健一郎氏リポート②

■国際概況

九月前半は、八月のISM米製造業景気指数が四九・一となり、好況と不況の分岐点とされる五〇割れ、中国人民銀行が景気下支え策として預金準備率の引き下げを発表したことを受けて、この措置は米中貿易戦争の長期化に対する備えとの認識されたことなどのマイナス材料もあったが、八月の財新の中国製造業購買担当者景況指数(PMI)が五〇・四で事前予想の四九・八、好不況の分岐点である五〇を上回り、香港政府が逃亡犯条例改正案を正式に撤回したことを好感しLMアルミ相場はUP、九月十四日時点で一、七六八ドル(セツル)と月初価格から五二ドルUPの前半締めとなった。

後半は中国企業の上場廃止や米国の対中証券投資の制限については米財務省報道官が否定、米中間での閣僚会議が開催される見通しなどのプラス材料もあったが、九月のドイツの購買担当者景況指数(PMI)が製造業、非製造業とも事前予想を下回る弱気の数字となったこと、国慶節で米国を牽制する発言や軍事パレードを行ったことなどを嫌気しLMアルミ相場はDOWN、十月一日現在、後半スタート価格から六七ドルDOWNの一、七〇三・五ドル。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)
一〇八・一四↓一〇八・八四(円)。

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、七月の自動車生産台数は前年比一一・八%増の八九万六、九〇六台であった。
輸出(八月)は三四万九、五一八台で、前年同月比五・九%減。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、九月の自動車販売台数(軽除く)は前年比一二・八%増の三四万七、七〇六台。

◆新設住宅着工件数推移

令和元年八月の住宅着工戸数は七万六、〇三四戸で、前年同月比で七・一%減となった。また、季節調整済年率換算値では八九・二万戸(前月比二・一%減)となった。住宅着工の動向については、前年同月比で二カ月連続の減少となっており、利用関係別に

みると、前年同月比で分譲住宅は増、持家及び貸家は減となった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金が前年比二八・一%増の一二七t、二次合金が二六・五%減の八八一t、スクラップが一七五・二%増の一万七、〇二二t、アルミ缶が三〇%増の七、三九三t。

輸入

輸入は新地金が前年比二〇・七%減の九万九、二九五t、二次合金が九・四%減の九万七、八四二t、スクラップが六五・五%減の四四二t、合金スクラップは九・五%減の二、九四二t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比六・七%減の一三万五、二九九t。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比四・二%減の五万七、四〇六tであった。

■国内概況まとめ

【自動車】

日本自動車工業会によると、七月の自動車生産台数は前年比一一・八%増の八九万六、九〇六台であった。
輸出(八月)は三四万九、五一八台で前年同月比五・九%減。

【販売】

日本自動車販売協会連合会によると、九月の自動車販売台数(軽除く)は前年比一二・八%増の三四万七、七〇六台。
このうち、乗用車一三・二%増、貨物は一〇%増、バスは二・五%減。

【住宅】

令和元年八月の住宅着工戸数は七万六、〇三四戸で、前年同月比で七・一%減となった。また、季節調整済年率換算値では八九・二万戸(前月比二・一%減)となった。住宅着工の動向については、前年同月比で二カ月連続の減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で分譲住宅は増、持家及び貸家は減となった。
引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。(六面へ続く)

アルミスクラップの売れ行きは当面厳しいか

(四面より続く)

【アルミ圧延・押出品生産数量】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比六・七%減の一三万五、二九九tとマイナスに反転した。

このうち、板類は八万二四八tで七%減とマイナスに反転、押出類は五万五、一五一tで六・三%減と六カ月連続でマイナス。

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績】

生産は前年比四・二%減の五万七、四〇六tと八カ月連続マイナス、出荷は六・三%減の五万八、九二七tで三カ月連続マイナス。

【輸出】

アルミ新地金が前年比二八・二%増の二二七t、二次合金が二六・五%減の八八t、スクラップが一七五・二%増の二万七、〇二二t、アルミ缶が三〇%増の七、三九三t。

【輸入】

アルミ新地金が前年比二〇・七%減の九万九、二九五t、二次合金が九・四%減の九万七、八四二t、スクラップが六五・五%減の四四二t、合金スクラップが九五・九%減の二、九四二t。

【見通し】

・自動車は生産が一・八%増。国内販売台数が前年比二・八%増。生産、販売共に大幅増。生産、販売共に調整が入り来月は減少か？

・日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比六・七%減の二万五、二九九t。先月一九カ月ぶりプラスになったが、再びマイナスに反転。

・アルミニウム二次合金 同合金地金等生産実績は前年比四・二%減の五万七、四〇六tと八カ月連続マイナス、出荷は六・三%減の五万八、九二七tと三カ月連続マイナス。今後マイナスが続くかの動向に注視。

・アルミ輸出は、自動車内需から二次合金のみ減少。

【スクラップ見通し】

前月に続き流通在庫は販売価格の低迷、生産減、発生減から少ない。需要面に関しては足元の生産状況が徐々に悪化しており減少。

更に安い輸入塊が入ってきていることや米中貿易戦争から不透明感が強く、メーカーの購入意欲は低く、スクラップ販売は当面厳しい。

【LME・為替予想】

今月は米中貿易戦争の動向 英国のEU離脱に左右される。

米中貿易に関しては過度な懸念は後退傾向にあるが、中国建国七〇年となる国慶節で米国を牽制する発言や軍事パレードを行うなどしており、まだまだ混乱は続く？

EU離脱派の党員たちの間では共感を呼ぶなど混乱は続く離脱に関してはジョンソン英首相の強硬姿勢が保守党議員との軋轢を生んではいるが離脱派の党員たちの間では共感を呼ぶなど混乱は続く。

これらを踏まえた十月のアルミ価格は一、七〇〇〜一、八〇〇ドル。スクラップ購入価格に関しては〇〜五円安程度と予測している。

LME 非鉄在庫 (10月3日発表分)

	入庫	出庫	10月2日現在	増減
銅	39,750	3,575	290,250	+ 36,175
G A W	0	0	0	± 0
G A C	39,750	3,575	290,250	+ 36,175
す ず	0	25	6,745	- 25
鉛	0	125	69,225	- 125
垂 鉛 S H G	0	650	65,700	- 650
アル ミ	4,700	2,775	964,275	+ 1,925
二次合金	0	60	6,420	- 60
ニ ッ ケ ル	654	7,434	140,904	- 6,780
アルミ二次 (NASAA)	0	260	64,300	- 260

◇ K L T M 不相場

四日 一六・三〇〇 米ドル
二二

◇ 東工取 (四日前引、限月十月)

金 五、一八〇 円
銀 出来ず 円
白金 三、〇五六 円
パラジウム 五、七五〇 円